

## 4 研究のまとめ

### (1) 研究の考察

#### イ 抽出児による考察

**視点Ⅰ** 道徳上の問題とこれまでの自己を照らし合わせることで、自己を見つめることができたか  
**視点Ⅱ** 道徳上の問題を多面的・多角的に考えることで、自己の考えを広げ、深めることができたか  
**視点Ⅲ** 主題に関わる自己の(人間としての)生き方について振り返ることで、これからの自己を考えることができたか

道徳アンケートや授業中のワークシート、振り返りシートを基にした抽出児の変容について考察しました。抽出児は以下の3人としました(表1)。

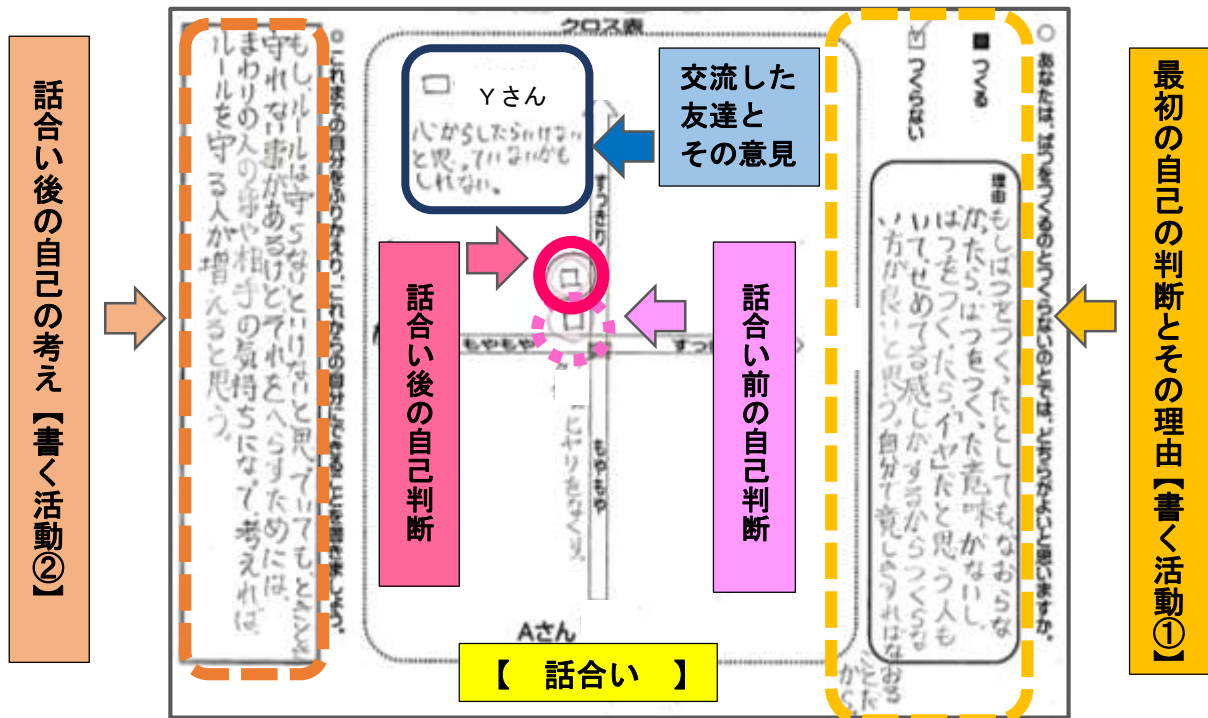
表1 道徳アンケートの抽出児の記述

◆質問項目「なぜ法やきまりがあるのかを理解し、それを大切にし、守ろうとしている。」

抽出児	◎ ○ △ ×	理由
A	○だいたいできている	法やきまりがないと自分勝手にしてしまう。
B	△あまりできていない	遅くまで遊んでいて時間を守れず、周りに迷惑をかけた。
C	×全くできていない	きまりを守って学校生活を送っていない。

まずA児は、道徳アンケートにおいて授業でねらいとする道徳的価値について、「だいたいできている」と答えており、その理由として「法やきまりがないと自分勝手にしてしまう」と記述していました。法やきまりがあるから自分勝手に行動することはできないと思っている児童と考えられます。

小学5年生「気持ちよく過ごすために」の授業におけるA児のワークシートは以下の通りでした(資料1)。



資料1 A児のワークシートの記述

これを見ると書く活動①では、「あなたは罰をつくるのとつくらないのでは、どちらがよいと思いますか」という発問に対して、「つくらない」と判断し、「罰が嫌だと思ふ人もいて、(マナーを守れない人を)責めている感じがする」「自分で意識すればなおる(騒ぐ人はいなくなる)」といくつかの理由を記述することができていました。また、クロス表を用いてマナーを守れている人「わたし」とマナーを守れていない人「Aさん」の2つの立場で気持ちを考えさせたときに、罰をつくらないことに対して「わたし」は少しもやもやするが「Aさん」は少しすっきりすると考えていました。

次に話し合いでは、ペアでの話し合いメモを見るとA児は、「罰をつくる」と考える友達と「罰をつくらない」と考える友達の2人と話し合っていました。そこでは、「罰をつくってヒヤリ(とすること)をなくしたほうがよい」「(罰をつくって騒ぐ人がいなくなっても)心からしてはいけないと思っていないかもしれない」という友達(Yさん)の意見を聞いてメモをとっていました。また、全体での話し合いにおいて、A児は「罰をつくって騒ぐ人がいなくなっても本当の解決とはいえない。罰がなくても守れるようになればみんなすっきりする」と発言しました。

最後に書く活動②では、話し合い後の自己の判断として「罰をつくらない」を選択し、Aさんが少しすっきりするほうに考えが傾いていました。さらに、「周りの人のことや相手の気持ちになって考えれば、ルール(マナー)を守る人が増えると思う」と記述していました。

このことから、「罰をつくらない」ことが大切というわけではなく、そのことによってみんなが周りの人の気持ちを考え、マナーを守れるようになることが大切であり、そこで初めてみんなが気持ちよく過ごせると考えていることが分かりました。

A児の振り返りシートの記述は以下の通りでした(表2)。

表2 A児の振り返りシートの記述

【4 よくできた 3 だいたいできた 2 あまりできなかった 1 全くできなかった】

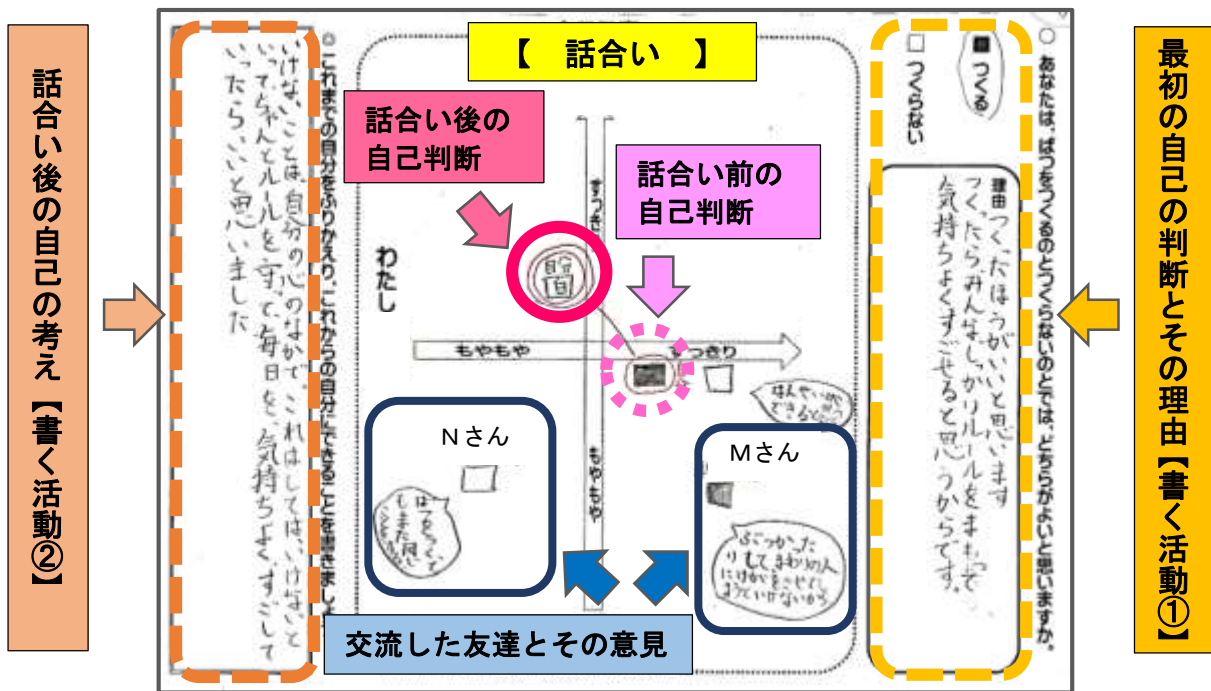
I 自己を見つめることについて	
1 資料中の問題を自分のこととして捉えることができましたか。	4
2 問題に対してどのように考え、行動するか書く(選ぶ)ことができましたか。	4
3 なぜそのように考え、行動するのか理由を書くことができましたか。	4
II 話し合うこと・考えることについて	
4 自分の考えを友達に伝え、友達の考えを聞くことができましたか。	4
5 話し合いをして、友達の考えとその理由を理解することができましたか。	3
6 友達と話し合ったことで自分の考えが増えたり、強くなったり変わったりしたと思いますか。	3
III 自己の生き方について	
7 マナーを守ることに学んだことや心に残ったことはありましたか。	4
8 マナーを守ることに学んだことや心に残ったことをこれまでの自分を振り返ることができましたか。	4
9 マナーを守ることに学んだことや心に残ったことをこれからの生活で生かしていきたいと思えますか。	4

A児は道徳アンケートにおいて、ねらいとする道徳的価値[規則の尊重]に照らして、「法やきまりがないと自分勝手に行動してしまう」と答えており、規則があることに重要性を感じていたことが分かりました。授業においては、書く活動①において、具体的な問題に対し、根拠を基にして「罰をつくらない」という自己判断をすることができていました。さらに、ペアでの話し合いでは、自分と同じ考えや自分と異なる考えの友達と交流し、全体での話し合いでは、友達の意見を踏まえた上で自分の考えを述べることができていました。書く活動②の記述や振り返りシートからは、友達の考えが自分の考えにある程度含まれるようになったことが分かり、マナーやきまりを守る意義について考えていたことがうかがえました。

以上のことから、A児は授業における書く活動①、話し合い、書く活動②を通して、規則があることの重要性よりもそれがあつたことの意義や守ろうとする気持ちが大切であるということを主体的に判断していくことができていたといえます。

次にB児は、道徳アンケートにおいて授業でねらいとする道徳的価値について、「あまりできていない」と答えており、その理由として「遅くまで遊んでいて時間を守れず、周りに迷惑をかけた」と記述していました。このことから、きまりをあまり守れていないという自己の判断とその根拠について明確な考えをもっている児童であることが分かりました。

授業におけるB児のワークシートは以下の通りでした(資料2)。



資料2 B児のワークシートの記述

これを見ると書く活動①では、「あなたは罰をつくるのとつくらないのでは、どちらがよいと思いますか」という発問に対して、「罰をつくる」と判断し、その理由まできちんと記述することができていました。このことから、罰があることでみんなが騒がなくなり気持ちよく過ごせると考えていることが分かります。また、クロス表を用いてマナーを守れている人「わたし」とマナーを守れていない人「Aさん」の2つの立場で気持ちを考えさせたときに、罰をつくることで「わたし」は少しすっきりするが「Aさん」は少しもやもやすると考えていました。このことから、罰はマナーを守れない人にとっては気持ちのよいものではないと捉えていることが分かりました。

次に話し合いでは、クロス表を見るとB児は、「罰をつくる」という1人(Mさん)と「罰をつくらない」という2人(うち1人はNさん)と話し合っていました。そこでは、「周りの人にけがをさせてしまうといけないから罰をつかったほうがよい(Mさん)」「(罰がなくても)反省ができると思う」「罰をつくっても(解決にはならず)また同じことをする(Nさん)」という友達の意見を聞いてメモをとっていました。

最後に書く活動②では、話し合い後の自己判断として、「わたし」はあまりすっきりしないが「罰をつくらない」を選択していました。さらに、「いけないことは、自分の心の中でこれはしてはいけないというルールを守って毎日、気持ちよく過ごせると考えています」と記述しており、罰があるから騒がなくなるのではなく、それぞれの心で善悪の判断をすることが大切であると考えていることが分かりました。

B児の振り返りシートの記述は以下の通りでした(表3)。

表3 B児の振り返りシートの記述

【4 よくできた 3 だいたいできた 2 あまりできなかった 1 全くできなかった】

I 自己を見つめることについて	
1 資料中の問題を自分のこととして捉えることができましたか。	3
2 問題に対してどのように考え、行動するか書く(選ぶ)ことができましたか。	4
3 なぜそのように考え、行動するのか理由を書くことができましたか。	4

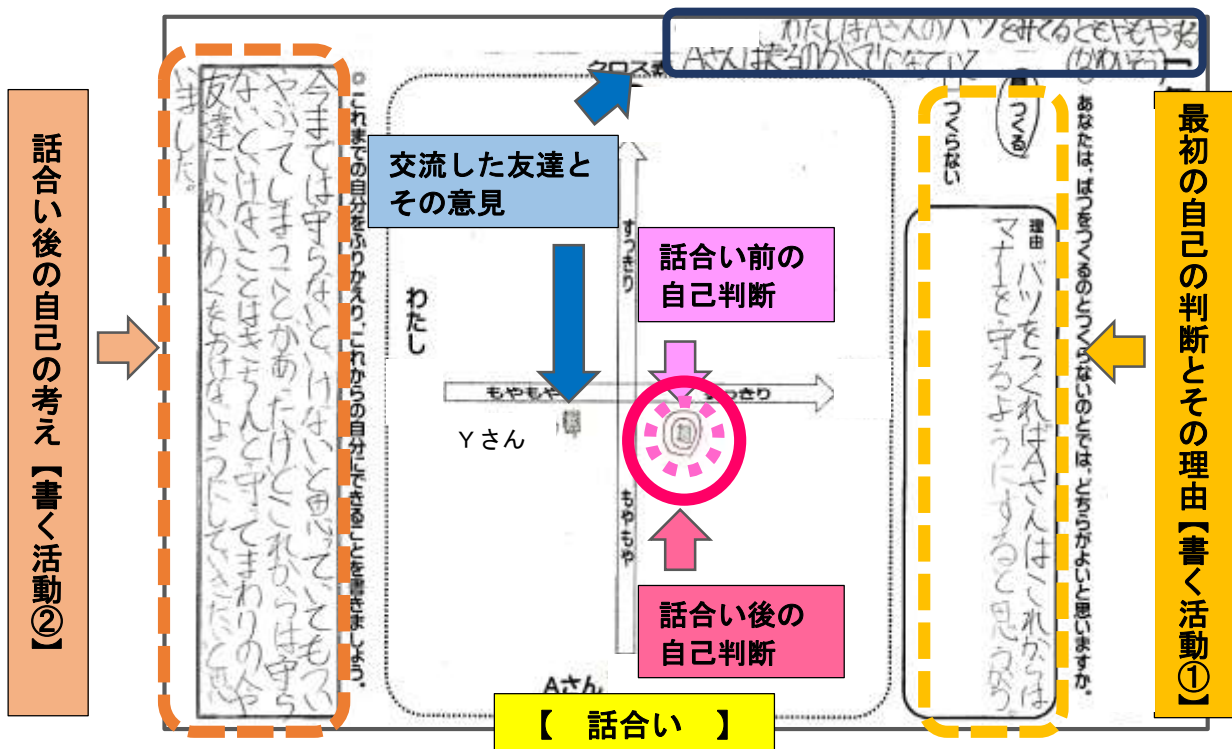
Ⅱ 話し合うこと・考えることについて		
4	自分の考えを友達に伝え、友達の考えを聞くことができましたか。	4
5	話し合いをして、友達の考えとその理由を理解することができましたか。	4
6	友達と話し合ったことで自分の考えが増えたり、強くなったり変わったりしたと思いますか。	3
Ⅲ 自己の生き方について		
7	マナーを守ることにについて学んだことや心に残ったことはありましたか。	4
8	マナーを守ることにについてこれまでの自分を振り返ることができましたか。	4
9	マナーを守ることにについて学んだことや心に残ったことをこれからの生活で生かしていきたいと思いますか。	4

B児は道徳アンケートにおいて、「規則の尊重」というねらいとする道徳的価値に照らして、「時間を守れていない」という根拠に基づき「あまりできていない」と答えていました。授業においても、具体的な問題に対し、書く活動①で、根拠を基にした自己の考えを記述することができていました。さらに、ペアや全体での話し合いにおいて友達の考えを聞き、理解した上で自己の考えを再構築し、書く活動②では、最初の判断とは違う判断を選択し、その根拠となる理由まで記述することができていました。振り返りシートからも、これまでの自己を振り返り、学んだことを今後の生活に生かしていきたいという気持ちをもっていったことがうかがえました。

以上のことから、授業における書く活動①、話し合い、書く活動②において、B児は、ねらいとする道徳的価値やそれに照らした自己の生き方について根拠に基づき主体的に判断していく中で、よりよく生活していきたいという気持ちを高めることができていたといえます。

最後にC児は、道徳アンケートにおいて授業でねらいとする道徳的価値について、「全くできていない」と答えており、その理由として「きまりやルールを守って学校生活を送っていないから」と記述していました。このことから、たとえよくないことでも自分の行動を客観的に認識した上で、自己判断ができる児童であるといえます。

授業におけるC児のワークシートは以下の通りでした(資料3)。



資料3 C児のワークシートの記述

これを見ると書く活動①では、「あなたは罰をつくるのとつくらないのでは、どちらがよいと思いますか」という発問に対して、「つくる」と判断し、罰をつくれればマナーが守れるようになって考えていることが分かりました。またクロス表では、罰をつくることで「わたし」は少しすっきりするが「Aさん」は少しもやもやすると考えていました。

次に話し合いでは、「罰をつくる」という同じ考えの友達1人(Yさん)と交流していました。その友達は、同じ判断ではあるが「Aさん(マナーを守れない人)が罰を受けているのを見てもやもやする」という考えをもっていたことがメモからうかがえました。つまり、その友達は、罰をつくることで2人ともすっきりしないと判断していたといえます。

最後に書く活動②では、話し合い後の自己の判断も話し合いの前と変わらない判断を選択していました。しかしながら、「守らないといけないことはきちんと守って、周りの人や友達に迷惑を掛けないようにしていきたい」と記述しており、自分や相手の考えだけではなく周りの人の気持ちに目を向けることの大切さを感じていることが分かりました。

C児の振り返りシートの記述は以下の通りでした(表4)。

表4 C児の振り返りシートの記述

【4 よくできた 3 だいたいできた 2 あまりできなかった 1 全くできなかった】

I 自己を見つめることについて	
1 資料中の問題を自分のこととして捉えることができましたか。	3
2 問題に対してどのように考え、行動するか書く(選ぶ)ことができましたか。	4
3 なぜそのように考え、行動するのか理由を書くことができましたか。	4
II 話し合うこと・考えることについて	
4 自分の考えを友達に伝え、友達の考えを聞くことができましたか。	3
5 話し合いをして、友達の考えとその理由を理解することができましたか。	3
6 友達と話し合ったことで自分の考えが増えたり、強くなったり変わったりしたと思いますか。	3
III 自己の生き方について	
7 マナーを守ることに学んだことや心に残ったことはありましたか。	3
8 マナーを守ることにこれまで自分を振り返ることができましたか。	4
9 マナーを守ることに学んだことや心に残ったことをこれからの生活で生かしていきたいと思いますか。	4

C児は道徳アンケートにおいて、「規則の尊重」というねらいとする道徳的価値に照らして、「全くできていない」と答えていました。授業においては、具体的な問題に対し、書く活動①で、「罰があればマナーを守るようになる」と罰の必要性を記述していました。ペアでの話し合いでは、同じ判断の友達一人との交流でしたが、考え方は違うことを感じる事ができていました。書く活動②では、最初の判断と同じ判断を選択していましたが、周りのことに目を向けた考え方が付け加えられていました。振り返りシートからも、友達との交流が「だいたいできた」ことが分かり、これまでの自分とこれからの自分について考えていたことがうかがえました。

以上のことから、授業における書く活動①、話し合い、書く活動②において、C児は、ねらいとする道徳的価値に照らして、これまでできていなかった自己を客観的に振り返ることができ、今後、周りのことを考えながら生活していこうと判断することができていたといえます。

抽出児の変容を全体的に見ると、1時間の授業の中で書く活動①、話し合い、書く活動②を設定することは、ねらいとする道徳的価値に対する自己の考えの深まりや変化を客観的に捉えることに有効であったと考えます。また、ペアや全体の話し合いで友達の多様な考えに触れることができ、それを踏まえた上でこれまでの自己を振り返り、これからの自己の生き方について主体的に判断することにつながっていたと考えます。